人材確保・育成、スマート農業

令和8年11月作成
北海道農政事務所北見地域拠点

# 農家13戸の結集、集落営農法人が描く農業の未来
## －人材育成とスマート農業で地域農業を次世代につなぐ－
## 農事組合法人勝山グリーンファーム（置戸町）

勝山グリーンファーム


構成員の皆さん

### ◇【取組の経緯と概要】

◆後継者不足による離農と集落衰退への危機感から、2015年に勝山地区の畑作農家13戸（構成員16名）が結集し、「農事組合法人勝山グリーンファーム」を設立。
◆同法人は、地区内の農地430haを一体的に管理。農業機械の集約や農業資材の一括購入により、生産コスト削減と効率的な経営を実現。
◆「てんさい課」「小麦・豆課」「ばれいしょ課」「総務課」の4課体制を導入。各作物担当課が、収支分析から翌年の栽培方針策定までを行い、現場主体で経営改善を図る体制を構築。
◆農協OBである社内役員の指導の下、数字に基づく経営判断や収支管理の研修を行うことで、後継世代の経営感覚を醸成。
◆2022年以降、就農フェアを活用し、若手従業員が自身の就農経験を交え、同法人の魅力や働き方を直接伝える採用活動を展開。

### 【組織等の概要】

- 社名：農事組合法人勝山グリーンファーム
- 所在地：置戸町勝山247-2
- 代表理事組合長：堺　信幸
- 法人設立年：2015年
- 経営面積：430ha（うち作付面積：360ha）
- 作付品目：てんさい、小麦、ばれいしょ、大豆、小豆
- 構成員数（従業員含む）：15名（20代2名、30代2名、40代5名、50代3名、60代3名）
- HP URL：https://www.katsuyama-gf.com/

### 【取組の成果】

- 給与制度改定の２年目以降、１人当たりの年収は改定前を上回る水準を確保。役割や成果を反映する仕組みにより、従業員の経営改善への主体的な参画を促進。
- 法人化とスマート農業の導入により、経営改善と農作業の効率化が進み、有給休暇の取得促進や宿舎の確保など、福利厚生が充実。
- 就農フェアを通じて、直近４年間で20～30代の農業未経験者４名を採用。現在、従業員の約半数が法人設立後の加入者となり、次世代人材の確保・定着が進展。

### 【取り組む際に生じた課題等への対応】

**● 給与制度の抜本的な見直し**

- 法人設立当初は、農家1戸あたり定額給与制度を採用していたが、個々の能力や成果が処遇に反映されず、従業員の就業意欲が低下。

**⇒　設立3年目（2017年）に、従業員へ新制度による試算を示しながら協議を重ね、役職や成果に応じた個人給与制度に改定。**

**● 熟練者の技術から自動操舵による機械化へ**

- トラクターによる苗の移植作業等は熟練技術を要し、作業負担が特定の従業員に集中していた。

**⇒　2019年以降、GNSS自動操舵システムを本格導入。農業未経験者でも作業習得が容易となり、人員配置の柔軟化によって繁忙期の交代休暇取得を実現。**


自動操舵システム活用による作業風景

### 【今後の展望】

- 後継世代が中心となって経営判断を担えるよう、各課の運営や経営研修を通じて人材育成を進め、生産基盤の安定・強化に注力。
- 費用対効果を十分に見極めながら、スマート農業機械の導入を進め、効率的な経営を推進。